



## 恒例の「<sup>ばんべいゆ</sup>晩白柚」(世界最大級の柑橘類)

昨夏、生産地である熊本県八代市の豪雨被害の影響を心配しましたが、無事に生産出荷されている情報をキャッチ！あとはコロナウィルス対策することで、なんとか恒例の「晩白柚」を見せてあげることができました。

昨年よりも小ぶりの晩白柚でしたが、どんと迫力のある外見は世界最大級の品格(!?)を保っていました。

今年<sup>ばんべいゆ</sup>は晩白柚、<sup>ぶんたん</sup>文旦、<sup>いよかん</sup>伊予柑、<sup>うんしゅう</sup>温州ミカン、<sup>ゆず</sup>柚子、<sup>きんかん</sup>金柑を並べました。

毎年<sup>ばんべいゆ</sup>のことながら、「大きいね」「小さいね」「黄色いね」「オレンジ色だね」「つるつるしてる」「ぼこぼこしてる」などなど、子どもたちは思いおもいに楽しみました。

れんげ組(1歳児)は、お散歩コースで金柑が生っている木の様子を楽しんでいるせいか「赤ちゃんみかんだよ」と金柑が人気でした。たんぼぼ組(2歳児)では、大きい順に並べられるかな？と聞いてみましたが「大きいのはこれ！」「これが一番大きい！」と晩白柚の大きさに圧倒され、順番に並べるのは大人と一緒にやりました。

こすもす組(3歳児)は並べてみると「わ～！みかんの階段みたい。」大きさの違いを表現していました。



あじさい・ひまわり組(4・5歳児)は「やっぱり大きいね」「これ、すっぱいんだよね」と触れたり、食べた経験をお友だちと共有していました。

年齢ごとの表情があり、感じ方も様々ですが「同じミカンなのに違いがある。」「同じ1個なのに違いがある。」何が違って、何が同じなのか？生活の中には学びの基礎になるものがあふれています。順番や計算を知ること、物の名前を覚えていくことも、たくさん遊び、生活の中で経験することが基礎になっていきます。

いつか、この経験が子どもたちの観察力や表現力にいい刺激になるといいなあと思います。



## ひな祭り(3月3日)

「桃の節句」ともいわれ、ひな人形や桃の花を飾って祝います。

むかしから「桃は邪気(病気を起こすと考えられる悪い気)をはらう力からがある」と考えられていました。また、旧暦の3月3日頃は桃の花の季節だったことから、ひな祭りには欠かせない花になりました。(「和の行事えほん」より)



ひし餅ってどんなお菓子？

ひな祭りのお供え物やごちそうは春らしい華やかな色合いが特徴的です。

ひなあられや飴細工、らくがんなどは今でも食べられているひな祭りならではのお菓子ですが、ひし餅は形は知っていても、食べた経験のある人は多くはなさそうです。

ひし餅は、春の大地である緑、雪の白、桃の花の赤を表した三段のおもちです。

江戸時代ごろまでは、緑と白の二色だったと言われており、緑にはよもぎの葉、白には<sup>ひし</sup>菱の実(池や沼などに生える植物で、実の形はひし形)を入れて作っていました。

